第 89 回秋田県中央メーデー

連合秋田主催の第 89 回秋田県中央メーデーが 4 月 28 日、秋田市中通のエリアなかいち「にぎわい広場」で開かれた。働き方改革の推進、賃金引き上げ、格差是正などを訴え秋田建労から１４０人が参加。

ディーセント・ワーク安心して働き続けられる社会の実現に向けて、全力を挙げて取り組む宣言を採択した。

連合秋田の黒崎保樹会長は、今年の 2018 春季生活闘争について「すべての働く者のくらしの底上げ・底支え、格差是正に向けて、賃上げの流れを継続させながら働き方改革にも取り組むことがポイントだ」と説明し、「秋田県を取り巻く環境は依然として厳しいが安心して暮らせる社会を作るために、きっちり今の状況を把握しながら支援体制を強化していきたい」と抱負を述べた。

来賓の佐竹敬久知事は、「秋田を発展させたいという思いは行政も労働者も同じ。生産効率を上げ、賃金水準のアップ、処遇改善を皆さんと一緒に頑張っていきたい」とあいさつした

式典に参加された政党、議員、事業団体のみなさんです。

メーデー会場では、本部役員、青年部員ら 12 人で全建総連春の賃金運動「賃金・単価引き上げ、法定福利費確保!!全国一斉宣伝行動」、地元建築職人のアピールと建設技能労働者の賃金・単価引き上げ、処遇改善の理解を求め宣伝活動を中央メーデー会場で行いました。

メーデー参加者や行き交う多くの市民に、「秋田建労です。よろしくお願いします」「おはようございます。秋田建労です」と元気よく声をかけながら、賃金アップ・処遇改善チラシ・組合名入りポケットティッシュを手渡し、賃金アップ・処遇改善を訴えました。

青年部員に交じり前崎龍平事務局員も元気よく声をかけながら賃金アップ・処遇改善を訴えました。

会場ステージ前では、海を山を秋田を守る地産地消ヒーロー超神ネイガーショーを開催していました。

毎年メーデーをネタに取り入れたショーは一見の価値があります。今年は働き方改革を取り入れ、ヤマビル怪人ホイドタガレに吸い付かれた戦闘員ホジーネが逆にホジアリ怪人に変化してしまい、無能な上司（怪人カナドキャシー）への不満をきっちりと理論的に唱える一幕もありました。（昨年は 35 億ネタでした）

式典には中央ブロック各支部員・主婦の会から多くの参加者に交じり初めて参加した男鹿支部　大山靖穂支部長は「会場全体の熱気とパワーを感じた。参加している組合員、主婦の会の多くの人たちの要求実現に向けた強い思いが伝わってきた。来年は人数を集めて参加したい」と話しました。

最後に参加者全員で「団結ガンバロー」を三唱し団結心を鼓舞した。その後、各団体は東コース、西コースに分かれて秋田駅前など中心部をパレードした。